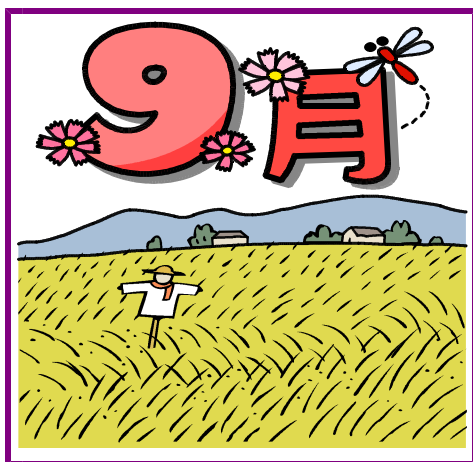


めぐみイエス・キリスト教会

2021年9月19日(日)第三主日礼拝
週報「通算第575号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌21「輝く日を仰ぐ時」	p. 28
【交読文】	No.11詩篇第32篇	p. 887
【賛美Ⅱ】	新聖歌176「イエスは汝を呼び給う」	p. 254
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.15「野に咲く花も空の鳥も」	
【聖書朗読】	使徒の働き12章1節～5節(新約p. 257下段)	
【礼拝説教】	《ヤコブの殉教とペテロの監禁》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所(使徒の働き12章1節～5節)

12:1 そのころ、ヘロデ王は、教会の中のある人たちを苦しめようとしてその手を伸ばし、

12:2 ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。

12:3 それがユダヤ人に喜ばれたのを見て、さらにペテロも捕らえにかかった。それは、種なしパンの祭りの時期であった。

12:4 ヘロデはペテロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡して監視させた。過越の祭りの後に、彼を民衆の前に引き出すつもりでいたのである。

12:5 こうしてペテロは牢に閉じ込められていたが、教会は彼のために、熱心な祈りを神にささげていた。

●ポイント1.「そのころ」とは？

※使徒の働き11章27節～30節「世界的規模の大飢饉」 (新約p.257)

11:27 その頃、預言者たちがエルサレムからアンティオキアに下って来た。

11:28 その中の一人で名をアガボという人が立って、世界中に大飢饉が起こると御霊によって預言し、それがクラウディウス帝の時に起こった。

11:29 弟子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住んでいる兄弟たちに救援の物を送ることに決めた。

11:30 彼らはそれを実行し、バルナバとサウロの手に託して長老たちに送った。

※使徒の働き12章25節「奉仕を果たしたバルナバとサウロ」 (新約p.259)

12:25 エルサレムのための奉仕を果たしたバルナバとサウロは、マルコと呼ばれるヨハネを連れて、戻って来た。

●ポイント2.「使徒ヤコブの殉教」とは？

※マタイの福音書20章20節～23節「叔母と二人の従兄弟」 (新約p.41)

20:20 そのとき、ゼベダイの息子たちの母が、息子たちと一緒にイエスのところに来てひれ伏し、何かを願おうとした。

20:21 イエスが彼女に「何を願うのですか」と言われると、彼女は言った。「私のこの二人の息子があなたの御国で、一人はあなたの右に、一人は左に座れるように、お言葉を下さい。」

20:22 イエスは答えられた。「あなたがたは自分が何を求めているのか分かっていません。私が飲もうとしている杯を飲むことができますか。」彼らは「できます」と言った。

20:23 イエスは言われた。「あなたがたは私の杯を飲むことになります。しかし、私の右と左に座ることは、私が許すことではありません。私の父によって備えられた人たちに与えられるのです。」

●ポイント3.「主イエスの墓」の事実とは？

※マタイの福音書28章1節～4節・11節「ローマ兵の見張り」 (新約p.259)

◎先週のメッセージの概要【大飢饉と愛の支援】

《その頃とは、紀元46年頃の事です。エルサレム教会から預言者たちがアンティオキアに下って来ました。この当時の初代教会時代では、十二使徒と預言者が、おもに用いられていました。それでは、なぜエルサレム教会は預言者たちを送って来たのでしょうか。それは、愛と慰めの人である指導者バルナバを励ます為にです。その預言者たちの長が「アガポ」でした。何とバルナバと同じく、主によって選ばれた72人の弟子の中の一人であったことが伝承として伝えられています。アガポは、世界的規模の大飢饉を預言しました。この時の「世界」とは、ローマ帝国の全領土を指しています。果たして、紀元47年頃に大飢饉が起きました。最もひどかったのはパレスチナで、特にエルサレム近辺であったと伝えられています。聖霊と信仰と愛と慰めに満ちていたバルナバによって指導されたアンティオキア教会は、その感化もあって、愛と慰めに満ちていました。

エルサレム教会の兄弟たちが、飢饉で困窮して苦しんでいることを知ったアンティオキア教会のクリスチャンたちは、早速それぞれの力に応じて、救援物資を送ることを決めたのです。そして教会は、バルナバとサウロの二人を、送り出したのです。この愛と慰めの支援について、後に使徒パウロは、コリント人への手紙において、このように勧めています。

『私が伝えたいことは、こうです。わずかだけ蒔く者はわずかだけ刈り入れ、豊かに蒔く者は豊かに刈り入れます。一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える人を愛して下さるのです。神はあなたがたに、あらゆる恵みを溢れるばかりに与えることがおできになります。』と。使徒パウロは、まさに与えることの祝福を教えています。神様の法則は、まず与えることが先決です。

なぜなら、主イエス様が私たちにご自身の命を与えて下さったからです。それゆえ、私たちは罪赦され、永遠の命が与えられています。主イエスは言われます。「与えなさい。そうすれば与えられます。」と。》

◎お知らせ

※第四主日礼拝は、平常通り9月26日(日)午前10時から行ないます。聖書勉強会・祈り会は、9月22日(水)各家庭において行ないます。